



ASIANA AIRLINES

# アジアナ航空株式会社



Yeon Koo Park

朴 ヨンゲ  
淵求 熊本支店長

## 熊本支店の特異性

アジアナ航空は、阿蘇くまもと空港など日本の17の空港から23路線を運航しています。昨年は、円高の影響で旅客数が減少しましたが、今年に入ってから少しずつ持ち直しています。しかし旅客数の外国人割合の今年のデータは、約6割が韓国人なんです。つまり日本人が4割しかないんですね。これは我が社でも珍しいことなんです。全体的な旅客数は6〜7割あれば、路線を維持することができます。

思いますが、もっと日本人に乗ってほしいという思いはありますね。

今後は、週5便にするなどのテスト運航を行っていきたくと思っています。日本の皆さんから日曜日も運航して欲しいとの声もありますが、テスト運航を行った後、常便になった場合に見直す場合があるかも知れません。もちろん同じ曜日で便数を見直す場合もあります。これも外国人の旅客数の割合を保ちながら見直さなければならぬです。やはり日本の皆さんが「熊本—ソウル線」をもっと利

## 韓国から見た熊本

用してくれることでご希望に添えることになるのではないかと考えています。

韓国人が知っている熊本で有名なものは「熊本城、温泉、ゴルフ場」そして「阿蘇」なんです。熊本と言う地名を知らなくても「阿蘇」という言葉は知っていますからね。だから「阿蘇くまもと空港」というネーミングはすばらしいと思っています。阿蘇が熊本にあることが一目で分かりますからね。そしてわたしが思うことです、熊本と言うか日本は食事がおいしいです。天草に行けば美味しい魚を食べることができると、お肉もおいしいと思います。韓国の人たちに對して「食」というPRもできるのではないかと考えています。

## 大津町のメリット

熊本県としても唯一の国際線である熊本—ソウル線は必要だと思えます。だから大津町の人を始め、県民に関心を持って

りたいと思います。アメリカやヨーロッパなどの韓国以外の国に行く際も仁川空港から乗り継ぎができます。これも活用して欲しいですね。なので空港に近い大津町の人たちはとてもラッキーだと思えます。大きな渋滞も無く20分程度で空港に行くことができますからね。ぜひ空港を利用して韓国に来てくれることを願っています。

そして韓国から来た観光客をもてなすことができるようなまちづくりもお願いしたいです。大津町は、阿蘇にも熊本市内にもアクセスしやすいという利便性を持っているので、そこを利用して大津町をPRして欲しいですね。

5月24日、アジアナ航空は、世界的に有名な航空業界の調査会社スカイトラックス社(英国)による「エアライン・オブ・ザ・イヤー2010」を受賞した。これは、国際線に搭乗した世界の1,790万人を対象に調査を行い決定する賞で、同航空はその他にも多くの受賞している。

その航空会社が持つ路線が熊本にあることも一つの誇りだろう。

# 熊本—ソウル線の 今後は—

アジアナ航空熊本支店長に聞く

# 1を0にするのではなく 1を2にしていきたい

県交通対策総室副総室長が語る

## 国際線存在の意義 目指す観光立県

なぜ、阿蘇くまもと空港に国際線が必要なのかというと、平成20年には観光庁を設立するなど、今日本は国をあげて観光に力を入れています。そのようななか、蒲島知事も話しています「稼げる熊本」、観光立県を目指そうとしています。では、その観光をする際の移動はどうするかという国内移動は新幹線を、国外は飛行機の国際線をメインに使用することになるんですね。だから、国際線がない方がおかしいくらいなんです。現在1路線しかない国際定期便ですが、2路線3路線と増やしたいと思っています。

日本人と外国人が旅行で使うお金は、1日当たり日本人は2万1千円、外国人は2万7千円と言われています。旅行全体の総支出としては、日本人は4万円強。外国人は11万円と3倍近くの差が見られるんですね。その点を考えても国際的な観光を進めていかなければいけ

ることは必須であると思っています。熊本—ソウル線だけではなく、台湾へのチャーター便を検討しています。チャーター便から定期チャーター便、そして定期便へと進めていくことができればと思っています。もちろん台湾便以外にも国際線の拡張を進めたいと思っています。

## おもてなしの心

今回、韓国で協議会の総会を開催しました。熊本をソウル市民やアジアナ航空へアピールするためでもありましたし、メンバーである各市町村長さんたち

ないということですね。他の空港から熊本まで来てもらえれば良いのではないかと、意見もあるのですが、発着の空港があるところは支出する金額も変わってくるんです。皆さんも空港やその近くで買っていかれたお土産をまとめて買った記憶がないですか？そういうことなんです。

## 来る人も行く人も— 今後も国際線の拡張を

「インバウンド」(外国から熊本に来る人たちのこと)と「アウトバウンド」(熊本から外国に行く人たちのこと)はどちらも重要視しています。もともと熊本—ソウル線が好調なときに、週5便の検討を進めていました。今後、週5便そしてデイリー(毎日運航)に進んでいき、インバウンド中心の運航時間帯をアウトバウンド中心に変更していくことができないかとも思っています。

道州制も検討されるなか、熊本は州都を目指しています。そのためにも、空港に国際線があるに韓国を肌で感じていただくことができたと思うので、各市町村で独自に何かを進めて行ってもらうことも期待しています。

今後は空港などの表示を4カ国語表記にするなどの充実を図るべきだと話す中川副総室長。仁川空港ですべて4カ国語表記になっている、歓迎されていることが伝わると言います。こちらのおもてなしの心や歓迎などを観光客に伝えることも大事なのでは—それが観光立県をつかっていくことなのでしょう。

## 熊本県 企画振興部 交通対策総室



中川 誠 副総室長

Makoto Nakagawa